



うさぎぐみだより

社会福祉法人尚徳福祉会 生麦保育園

2020年2月号 発行

2月は立春という言葉とは裏腹に、最も寒い季節に入ります。でも子どもたちは元気いっぱい。外に出ると鬼ごっこ遊びで走り回ることが多く見られるようになりました。「子どもは風の子だよねー」と、外遊びはとても積極的出す。北風に負けず、出来る限り外に出て遊ぶよう心掛けていきたいと思います。

～小さな春を見つけています～

寒いとはいえ、少しずつ春の兆しが見えてきています。うさぎ組では水耕栽培のヒヤシンスが芽吹き始めました。「葉っぱからなんか出てきたよ。」と言いながらのぞき込んでいた子どもたち。ついこの間「あっ。ピンクの花が見える。」と大発見の友だちの声に、遊んでいた子どもたちが一斉に集まりました。花が見え始めたのは薄いピンク色と濃いピンク色の二つです。「ほんとだ。」「かわいいねー。」「こっちは黄色、まだでてこないねー。これは紫、まだだねー。」と小さな春に期待をもって目を輝かせていました。外に出た時にも木の芽や草の芽吹きを発見できたらいいなと思います。



～大好きな制作～

節分に向け鬼のお面を作りました。始めは折り紙で三角を上手に折る練習。「角と角を合わせて。」「裏の白が隠れるように折るときれいに折れるよ。」「しっかりアイロンをかけてね。」と声を掛けると「これでいい?」と心配そうに聞いてくる子もいましたが、見るとほとんどの子が上手に折ることができていました。丸めた折り紙を髪の毛に見立てて貼り付け、自分で書いた目を貼り、口や眉毛は個々に自由に描きました。後は子どもたちの発想で、牙を描いたりほっぺを描いたりとてもユニークに仕上がりました。節分が楽しみです。

～お願い～

- ・寒い季節。外に出る際、肌着をズボンの中にしてしまうよう声を掛けています。みんな厚手の洋服を着ているので部屋の中では気にならなかったのですが、中に肌着を着ていないお子さんを見かけることがあります。トレーナーをズボンに挟むのはもそもそしてかわいそう。でも、入れないと外でおへそが見えていることがあり、ちょっと寒そうです。溶連菌やインフルエンザなど心配される感染症の流行も聞こえてきます。肌着の着用をお願いします。
- ・最近、外遊びでの行動がとても激しくなってきました。ズボンや上着が泥んこになることもしばしばです。お洗濯ものが増え保護者の皆様にはご迷惑をおかけすることも多くなっていると思いますが、補充をよろしくお願いいたします。また、汚れ物がロッカーのカゴの中に入っているか毎日ご確認ください。